

# 趣味への参入をめぐるー レジンアクセサリー制作における野火的活動の実際 Learning New Hobbies: Wildfire Activities in Resin Accessory Making

青山 征彦  
Masahiko AOYAMA

成城大学社会イノベーション学部  
Faculty of Social Innovation, Seijo University  
aoyama@seijo.ac.jp

## Abstract

Interviews on the ladies who enjoy the resin accessory making for hobby, concerning with the basis of learning and practicing their hobby. Their practices resemble each other in many respects, despite they have no connection at all. Their activities were examined with the notion of Engestrom's Wildfire Activity. Interviews showed the following points: (1) "Uchuu-nuri", the technique for painting starry sky with manicure, offer the template for novices, which enables novices making accessory easily, (2) prior experience of handcraft helps their starting new hobby, (3) "100yen-shops", which sell resin fluid or accessory parts cheaply, strongly supports their practice, (4) exhibition like comic market or design fiesta, offers broader context for their practice.

**Keywords** — Hobby, Resin Accessory, Wildfire activity

## 1. 目的

近年、サブカルチャーにおける実践への関心が高まっている。特に、コミュニティにおける学びや実践がどのような基盤に支えられているかについて、腐女子やコスプレイヤーの実践から検討が進められてきた(松浦・岡部(2014)など)。サブカルチャーにおける実践は、一部のマニアの楽しみであり、マニアでない普通の人々には関係がないもののように扱われやすい。しかし、これらのマニアは、頼まれてもいないのに多くの時間を割いて活動し、報酬が得られるわけでもないのに献身的にコミュニティに関わっている。なにがこうした熱心な活動を支えているのかを明らかにすることは、持続的な学びのコミュニティを実現する上で、一般の人々にとっても貴重な知見をもたらすはずである。

こうしたサブカルチャーの実践は、野火的活動と言えるものが多い。野火的活動とは、互いにつながり合っているわけではないのに、同時多発的に類似の活動が生じることを指す(エンゲストローム, 2013; 青山, 2015)。例えば、ひとたび大災害が生じると、ボランティアがあちこちから駆けつけるが、ボランティア同士には何のつながりもない、といった事態がこれにあたる。そもそも、草原で野火が生じるには、乾燥やガスの発生など、目には見えにくい共通の要因があると考えられる。同様に考える

なら、野火的活動にも見えにくい共通土壌があるはずである。エンゲストロームはこれを菌根と呼んだ。地下で広がっている菌根から、地上のキノコがあちこちで生えるという見立てである。近年の研究から、マニアたちも、こうした共通土壌を持っていることが指摘されている。例えば、コスプレイヤーはコスプレ情報の集まる専門のSNSを利用して、衣装や小道具制作のヒントを得ている。ゲームマニアも同様に、ネット上の動画や攻略法サイトを共通に利用しているようである。

本研究では、このような関心から、レジンアクセサリーの制作という趣味をとりあげる。レジンとは、透明性が高い光硬化性の樹脂である。光硬化性であることから、加工は容易であり、このレジンを用いたアクセサリー制作が近年、若い女性のあいだで流行しつつある。レジンアクセサリーに関心を持ち、そのコミュニティに参入し、制作を続けていくプロセスについて、探索的に検討しながら、こうした実践を下支えしている菌根は何かを探りたい。

## 2. 方法

被調査者 インタビューの対象者は、私立大学Aの4年生1名(以下、Aさん)と、私立大学Bの3年生1名(以下、Bさん)の計2名であり、2016年11月~12月にかけて、それぞれに対して1~2時間程度のインタビューを行った。Aさんは、調査者が以前から趣味について聞いていた直接の知り合いである。Bさんは、共通の知人を介して紹介してもらった。

## 3. 結果

インタビューにおける発話の書き起こしを示しながら、参入のプロセスや、参入を支えるリソースについて探索的に検討する。なお、本稿では、紙幅の都合により、インタビューアの発話を省略した。

(1) 参入のプロセス：Aさんは特に知り合いなどがいない状態で、独力で参入していた。一方、Bさんは、サークルの先輩から材料を譲り受けてスタートしていた。興味を持つきっかけとなったのは、イベントで販売されているアクセサリーを見たことや、ネットの画像を見たことのようなものである。

A：多分 Twitter かパソコンかどっかの、そういうネットとかなんですよ、情報源が。ゆうて、た、多分、あの、最初からこの宇宙塗りすごいやろうって思ってた。誰かの作品を見て。あ、すごいって思ってた。そこから、ちょうどしかもそれが作品の説明じゃなくて、その、レジンアクセサリーの作り方の説明だったんですよ。で、こういう、UV で固まる樹脂があって、そんなかにパーツを入れてこうやって固めると、アクセサリーが出来るんだって、いう説明付きで。こういうものがある。

B：で、なんかコミケとかあるじゃないですか。ああいうのでも、結構レジンのアクセサリーとか出してる人がいるんですね。でなんか、やっぱり綺麗なので、欲しいなあって思ってたんですけど。で、大学に入って、ハンドクラフトサークルっていうサークルに入ってえ、はい。でなんかそこに、で、入った、の先輩にレジンをやってる方がいて。で、その方が、あの、レジンやってみたくんですよって言ったらレジンに使う用の、なんか結構使い勝手が良いマニキュアとかをプレゼントしてくれたりして、でそこで始めたって感じですね。

(2) 宇宙塗り：参入のきっかけとして興味深いのは、「宇宙塗り」と言われるレジンアクセサリーの代表的な作例が繰り返し語られる点である。印象的で作ってみたいと思わせるものがあると同時に、ネット上に動画等で作成方法が豊富に提供されていることから、両者とも初期に宇宙塗りに取り組んでいる。

A：えーっと、最初-最初はその文章に、この中身宇宙塗りで作ったんですけどっていう説明文があって、宇宙塗りってなんだろうって調べたら、YouTube とかにいっぱい載ってて、宇宙塗り、塗り方とか、レジンのその下のベースの色の塗り方マニキュア編み

たいとかなんだとあります一杯。で、それ見て、あ、これ自分でも出来そうとか思って。

(先輩がくれたマニキュアはやっぱり宇宙塗り用のマニキュアは入ってたんですか)

B：あ、そうですね。なんかそういう系、塗り方がしてみたいんですけどって言ったら、これ良いよーって言って。

B：あー何かネットで塗り方を探して、もう最初はできないんで、その通りに塗りました。そうですね。マニキュアの種類まで指定してくれて、この3種類を使いましょうみたいな。

(3) 材料の調達：制作に必要な材料は、主に100円ショップで購入されている。もちろん、細かいパーツなどは後述するように専門店で購入されているが、100円ショップにも制作に使うことのできるものが揃っており、制作を支えている重要な存在であることがわかる。

A：使う色適当に100均だからいいやっていって片っ端から全部買って。マニキュア100均でも出来るって宇宙塗りの説明にも書いてあったので。

B：レジン液百均でも売ってるよって教えてもらって。で、それで作、あ、ほんとかって思って作りました

B：フレームはやっぱり百均なんですけど。売ってます。百均で。(中略) いや、百均大好きなんで通ってましたね。

(4) 専門店へのアクセス：100円ショップでもさまざまなものが入手できるが、凝ったパーツは専門店で入手することになる。Aさん、Bさんとも、こうした専門店を利用していたが、共通しているのは、もともとこうした専門店に行っていたという前史があることである。逆に言うと、前史があるからこそ、スムーズな参入が可能になったとも言える。

A：月と猫っていう、よく人気の相性っていうか、タグで(うん。え、その、パーツ自体はどっかで仕入れてくるの?) あ、仕入れますね。そ、パーツ

自体は、パソコンとか携帯の minne っていうハンドメイド。ハンドメイドのあのサイトで、パーツで買ってます。

A：このメーカー私、ここの、よく使ってるんですけど、パーツクラブ、これグラムパーツっていうんですけど。ここの、のメーカーでこのお花とか買ってるんです。花だったり、ここの、ほんとに、そういう、ハンドメイド専門のお店で、こういうパーツ一杯売ってます。

B：貴和製作所っていう手芸屋さんがあるんですけど、何か前からレジンはしないけど天然石のビーズとかでプレスレットを作るのが好きだったんですよ。でもその時に買ったパーツが余ってたりとか、後、家の近くに貴和製作所があるんで、そこに行って作りたいパーツを。

(5) 作る動機：基本的に、自分の作りたいものを作るのだが、友人から頼まれて作ることもある。Aさんは販売はせず、自分で持っていたり、人にあげたりする。Bさんも、人にあげたりしていたが、販売がきっかけになって、制作していたこともあるようである。販売は、お金もうけという側面よりも、作品を評価してもらえきかけのように見受けられる。

A：基本こうやって作ったのはあげ、はしないんですけど、頼まれることはちょこちょこあるんで、それ用で作るのは勿論あげたりとかしますね。

B：11月にある文化祭でフリーマーケットを出したんですね。で、そこで、自分の作品を売りに出せるので、めっちゃ頑張っ作って。で、やっぱ売ってなるといっぱい数を作んなきゃいけない。

(6) 作品の流通：制作したアクセサリーは、写真に撮ってSNSなどに公開される。作品が、周囲から賞賛されることにより、制作の励みになる。

A：あー。写真は、力作だと撮りますね。加工したりとか、角度見たりとか、わざわざ下地別の用意してこう撮ったりとかしますね（あー。え、で、それは Twitter とかにあげんの？）あげてます。あげ

てます。

B：最初に、たぶん続いたのも、作って続いたのも、すごいお気に入りをお気に入りをしてくれたからなので。

B：私文化祭が終わって、いくつか売れ残ったのを minne っていう手芸サイトにだして、それで売ってたんですね。で、割と、おきに、minne にもお気に入りみたいのがあるんですけど。してくれる人とかがいて。たまに買ってくれる人とがいたんでそれが嬉しくてめっちゃ作ってましたね。

(7) 作家や作品とのつながり：こうした制作活動を、下支えしているものの一つとして、SNSと各種イベントは重要な情報源になっている。AさんもBさんも、SNSによって好きな作家の情報を得て、各種イベントに行ったりしている。イベントで作品に触れたり、SNSで新作の情報がきたりすることで、自身の制作のヒントが得られているようである。

A：デザフェスとかイベントに行って、そこで、直接お話し聞いたりとか、作品見て買ったりとか。そこに名刺がもうご自由にお取り下さいってあるんで。あ、Twitter のアカウントあるってフォローして。あなたの作品買いました。すごい可愛いですみたいな感じでやり取りしたりとか。

A：多分それこそ、最初レジンとかの、方で知り、知り合ったというか見つけた、すごい素敵なアカウントあって、その人がデザフェスに出るって言うので、来て、告知で来て、で、デザフェスってなんやあってなって、パソコンで調べるとこういうサイトがもう 1000、2000 バアーって出てきて、行こうって。

B：デザフェス、デザインフェスタっていうイベントがあるんですけど、それに行くのがすごい好きなんですよ。で、なんかデザインフェスタに、やっぱレジンの作品を出してる人がいて、そのうちの一人の方の作風がすごく好きで。で、なんか、この塗り方どうにか真似できないかなーと思って、頑張ってる。

#### 4. 考察：何が野火的活動を支えているのか

(1)活動のテンプレート 野火的活動は、互いに通じているわけではないのに、同時多発的に同様の活動が生じるのが特徴である。レジンアクセサリーにおいては、「宇宙塗り」と呼ばれる技法に人気があり、この技法が動画共有サイトで広く紹介されていたことが、参入をしやすくしていた。このように、「宇宙塗り」が、いわば活動のテンプレートとなっていて、どうすれば参入できるかが明確になっていた。新参者はテンプレートにしたがって参入することになるために、同時多発的な実践が可能になったのではないかと考えられる。

(2)活動の文脈 アクセサリー制作という活動は、個人に閉じたものというよりは、SNSやイベントを通じて開かれたものであったようである。いずれの協力者も、自分の作品を撮って、SNSに投稿することで、作品を他者に見てもらえる機会をつくっていた。そこでの評価が、制作の励みにもなっていた。また、イベントやSNSに参加することで、制作を趣味や仕事とする人とのつながりを持つことになる。このことは、制作のあり方にも影響していた。個人で制作していたとしても、その活動は個人を越えた文脈の中にあつたと考えられる。

(3)活動のリソース 制作を下支えしている主なリソースは、Youtubeのような動画共有サイトにある解説動画と、ダイソーに代表される百元ショップである（この点は、コスプレイヤーの制作活動について調査した松浦・岡部(2014)の結果と同様である）。そのため、Aさんのように手ほどきをしてくれる他者がいない場合でも参入しやすいと考えられる。Aさんは、自分の手指にはマニキュアを塗らないが、百元ショップでマニキュアを多数買いそろえている。また、Bさんは、レジンや、枠などのパーツを百元ショップで購入していた。

また、凝ったパーツや、細かなパーツの入手には、ネット上の販売店のほか、手芸専門店が利用されていた。こうした専門店は、以前から他のものを買うために利用していて、いわばなじみがあつたことも、参入を助けていたように見受けられる。野火的活動を考えていく際には、活動の前史という観点が必要であることがわかる。

## 参考文献

[1] 有元典文・岡部大介 (2013) . デザインドリァリティ増補版—集合的達成の心理学. 北樹出版

- [2] 青山征彦 (2015). 越境と活動理論のことはじめ. 香川秀太・青山征彦 編『越境する対話と学び——異質な人・組織・コミュニティをつなぐ』 新曜社. Pp.19-33.
- [3] エングストロム,Y. 山住勝弘 (訳) (2013). 『ネットワークする活動理論』 新曜社.
- [4] 松浦李恵・岡部大介 (2014) . モノをつくることを通じた主体の可視化：コスプレファンダムのフィールドワークを通して. 日本認知科学会『認知科学』第21巻1号 pp.141~p153..